

“人を救う”体験イベント 「赤十字KIDS CROSS」を開催!



9月15日(月祝)、千葉県内の赤十字施設が合同で、子供向けの赤十字事業体験イベントを開催しました。

千葉県支部は救護員体験コーナーを開き、トランシーバーを使った無線通信の方法を紹介しました。

学生を中心としたボランティアのご協力もいただきながら、260人以上のお子さんにご参加いただき、赤十字の取り組みをお伝えすることができました。

千葉県支部では今後も施設の垣根を越えたイベントを開催予定です!

香港とバヌアツのJRCメンバー を6日間受け入れました!



県内の青少年赤十字メンバーとの交流会や、千葉県立葉園台高等学校の生徒さんのお宅へのホームステイを実施し、それぞれの時間を過ごしました。

旭市防災資料館の訪問では、津波の経験と知識、押し寄せた際の防災について学びました。

交流中は、語学奉仕団や青年奉仕団のご協力をいただき、言語の壁を超えたコミュニケーションで仲を深めることができました。



活動資金 協力企業 (団体)の ご紹介

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられており、赤十字活動の「大きな力」となっています。

※令和6年度第4～令和7年度第3四半期に千葉県支部へ直接10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた法人(団体)をご紹介します。(敬称略・五十音順)

株式会社 アースダンボール
株式会社 畔蒜工務店
株式会社 石井興業
医療法人社団 青峯会 医聖よろずクリニック
株式会社 上野工業所
行政書士法人 内田総合事務所
株式会社 エスコポーレーション
有限会社 エヌテック
株式会社 オアシスグループ
小澤土地家屋調査士事務所
株式会社 風間建設工業所
かすみメンテナンス 株式会社
学校法人 秀明学園 秀明大学
勝又自動車 株式会社
鎌ヶ谷巧業 株式会社
キッコーマン 株式会社
京相製管 株式会社
近代住機 株式会社
株式会社 倉持鉄工
有限会社 K. K. gardens
株式会社 京葉銀行
ケージーサービス 株式会社
株式会社 坂戸工作所
株式会社 三栄
株式会社 三浩総産
株式会社 サンタクロース

シーエスジャパン 株式会社
株式会社 ジューソン
株式会社 シーエヌティー
株式会社 シンク・ラボラトリー
株式会社 鈴木鉄工
有限会社 創和設備設計
第一生命保険 株式会社
株式会社 高品ハウジング
株式会社 ダンゴ&ディーネンタールジャパン
「小さな親切」運動ちばぎん支部
株式会社 千葉銀行
千葉県信用保証協会
千葉建設業 協同組合
千葉県電力総連
株式会社 千葉興業銀行
千葉中央ライオンズクラブ
千葉トヨペット 株式会社
株式会社 Team Y's
株式会社 坪井設計
株式会社 鶴商メンテナンス工業
株式会社 傳之丞
株式会社 東総理工
有限会社 東洋軌道
トヨタカローラ千葉 株式会社
株式会社 成田萬味
日幸建設 株式会社

一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
千葉県支部
日本大学松戸歯学部
有限会社 BFサービス
FEEL GREAT 株式会社
株式会社 福岡
有限会社 房州リサイクル
本土寺
株式会社 松戸萬味
株式会社 真野工業
有限会社 マルコー物流
まるは 株式会社
萬味商事 株式会社
みはらデンタルクリニック
医療法人社団 明恵会 若宮中央医院皮膚科
クリニック
山十道路 株式会社
株式会社 山田総業
株式会社 横打
四街道ふじわら小児科医院
米屋産業 株式会社
ヨロズヤ米穀店
株式会社 リンクス・ビルド
ロビンスジャパン 株式会社

CHIBA 赤十字 NOW

2026

Vol. 69



発行所/ 日本赤十字社千葉県支部
〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7
TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812
<https://www.chiba.jrc.or.jp/>

 **日本赤十字社** 千葉県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字活動へのご寄付はこちらから➡



東日本大震災から15年

千葉県支部の取り組みを振り返る

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖で発生したマグニチュード9.0の巨大地震。
震源から離れたここ千葉県でも、成田市や印西市で震度6弱を観測しました。
多くの犠牲者を出した震災から15年。発災後の千葉県支部の対応を振り返ります。

発災

超急性期～急性期
(発災直後～約72時間)

Pick UP:災害対策本部の設置

災害対策本部とは、災害時に飛び交う様々な情報や被災状況を収集し、関係機関と連携をとりながら、支部の対応を決定・指示する臨時機関です。成田赤十字病院から出動する救護班の派遣調整や救援物資搬送のほか、広報・記録など、幅広い業務を行いました。



発災直後、災害対策本部立ち上げ

Pick UP:救護班の派遣

千葉県支部は、発災当日から同年8月8日までの約半年間に、延べ20個班の救護班を派遣しました。県外対応としては、被害が甚大であった宮城県石巻市や岩手県釜石市を中心に活動を展開。県内においては発災当日に帰宅困難者が多数見受けられた成田国際空港や東京ディズニーリゾートへ救護班を急行させ、体調が優れない方々の救護にあたりました。



石巻赤十字病院で活動する千葉県支部救護班

亜急性期
(発災後約72時間～数週間)



救援物資の配分



がれきの撤去作業を行う旭市のボランティア

発災から半年間で派遣された20個班の救護班のうち、半数は発災から1か月の間に派遣されました。

4月には救護班の派遣が落ち着きを見せる一方で、新たに精神科医の派遣が開始。6月に入ると、さらに「こころのケア」要員が加わりました。

こうした支援の変遷は、現場で求められるニーズが急性期の医療から、心理・社会的支援を主とした「長期的なケア」へと移り変わっていったことを物語っています。

慢性期～復興期
(発災後数週間～数年)

Pick UP:「こころのケア」の実施

日赤では、研修により知識や技術を身に付けたこころのケア要員が、被災者と傾聴を中心としたコミュニケーションを行いながら安心感を築いていく心理的な支援を行っています。
その他、子どもの遊び場の設置などの社会的な支援も行っています。

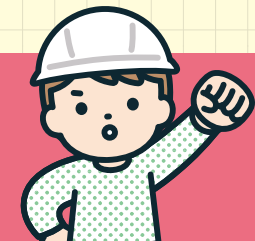


避難所で活動するこころのケアチーム



～大震災を経て～

千葉県支部 災害への備え



被災者のための救援物資

救援物資は避難生活終了後、配布者に各自お持ち帰りいただき、次の「いざという時」に備えていただけます。

救援物資①:毛布

フェルト生地、大きさはおよそ1.4m×2m
避難所にて被災者1人ずつにお配りしています。
平時は真空パックの状態でご準備しています。



救援物資②:緊急セット

世帯ごとにお配りする日用品のセットです。
タオルやガーゼ、歯ブラシ等衛生用品の他、
コップやカトラリー、電池付きのラジオや
懐中電灯などが入っています。



救援物資③:安眠セット

キャンピングマットの他、アイマスクやスリッパ、
エアークッションなど睡眠に必要なものが揃っています。
周囲の音が気になる避難所生活で
役立つ耳栓も入っています。



訓練で磨く、 確かな「現場力」



千葉県支部では九都県市合同防災訓練や海上保安庁との合同訓練など、他機関と連携した訓練に多数参加しています。また、支部独自の取り組みとして、救護所テントの設営訓練や緊急車両の運転研修など幅広い知識や技術を培う訓練・研修を実施しています。



赤十字防災セミナーを開催しています

近い将来に発生が予測されている首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模災害に対応するためには、地域における「自助」と「共助」の意識を高め、災害に関する知識を正しく理解し、防災意識の向上を図っていくことが極めて重要です。

赤十字防災セミナーでは、あなたのまちで災害が発生した際に予想される被害や、避難生活の課題をイメージしながら、防災・減災について深く学ぶことができます。

自治体・法人からのお申し込みも受け付けております！

防災セミナーの詳細は千葉県支部のホームページまで！



活動資金と義援金の違いをご紹介します

活動資金

《日本赤十字社が行う人道的活動のために》

日本赤十字社の活動は、会費や寄付を合わせた活動資金で支えられています。

活動資金を財源に、平時は救護訓練や資機材の整備、救援物資の備蓄を行っており、いざ、災害が発生した際は、医療救護活動や救援物資の配分を行います。

義援金

《全額を義援金配分委員会へお送りします》

日本赤十字社は、被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ義援金を全額お送りします。義援金は同委員会が定める配分基準に従って、市区町村等の自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。義援金が日本赤十字社の活動資金や事務経費に使われることは一切ありません。